

# 令和2年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立安方中学校

## 1. 昨年度の「改善プラン」の検証

### (1) 【成果】

歌唱の音程を覚える方法を変更したところ、音程の正確性が高まった。音程が正確に歌えるようになることで声量も上がることが期待できる。

### (2) 【課題】

歌唱の苦手な生徒への指導、支援のさらなる工夫  
ワークシートの改善

## 2. 授業改善のポイント

※改善内容に観点【関】【創】【技】【鑑】を記入。

### 1 学年

・合唱の楽譜に書き込みをして、自分で見て分かる楽譜作りを定着させる。発音、強弱、ブレス、表現のポイントなど注意事項を書き込み、主旋律などに蛍光ペンで色付けし音楽の構造に意識を向ける習慣を作る。【関】

・音楽を聴くことと表現することを結びつけ、歌詞の意味やその音楽が表わしている内容についてプリントやDVDを活用して考え、その考えを共有し実際に歌唱や器楽などで表現できる環境を設定する。【創】

・ワークシートを使い、自己評価と他者評価を通して自分が練習するポイントを明確にし、進度を教師と共通理解できるようにする。【技】

・音楽の主要な要素を鑑賞の活動から知覚、感受したものを記入できるようにワークシートを活用する。また、鑑賞で扱った音楽の要素を合唱などほかの活動でも意識させていく。【鑑】

### 2 学年

・パートリーダーを決め、ワークシートなどで補助しながらパート練習など生徒が主体的に進める時間を設定することで、自分たちで学習を進める力を高める。【関】

・模範演奏CDと自分たちの演奏を聴き比べることでどこをどのように変えるとよいか考えさせる。【創】

・混声合唱を通して声の重なりや和声の響きを体験し、声部のもつキャラクターを生かした発声を身に付けさせる。【技】

・オーケストラなど規模の大きな作品や日本の伝統音楽、日本人の作品などについて幅広く題材として取り上げる。【鑑】

### 3 学年

・授業規律を意識づけるため、挨拶の姿勢や持ち物のチェックなどを行い生徒の意識を高める。また、よいところを多く見つけ誉めることで自信をもたせ、積極的に参加しやすい雰囲気作りをする。【関】

・音楽の構造や曲想の変化から工夫を考え、それが実現できているかチェックを生徒自身が行うグループワークを行う。【創】

・声量が充分ではない生徒と発声方法が身に付いていない生徒にはそれぞれ、呼吸法や発声のイメージ、物理的な発声のメカニズムなど、理解と体験の両面から指導を行う。【技】

・日本の音楽と世界の音楽をバランスよく取扱い、音楽の多様性を感じ取れるようにする。【鑑】